

〔県民局だより〕

備中県民局の飼料用稲及び飼料用米

備中県民局管内の飼料用稲及び飼料用米の取組状況を紹介します。

1 総社

みなさんは、総社にどんな印象を持っておられますか？あまり畜産は盛んではないという印象をお持ちかもしれませんが、今年度は、稲 WCS 専用収穫機械を導入する予定です！

事業実施主体は、集落営農組織（構成員は稲作農家 54 戸）で、初年度ながら 19ha 生産を計画しています。

できた製品は、おかやま酪農協の仲介で、吉備中央町や高梁市の酪農家に供給したり、新見の作業請負組織と連携し、新見市の肉用牛農家等に供給する予定で、既存の行政や農協の管轄地域にとられない広域的な連携が求められています。

この連携がうまくいけば、稲作農家は飼料作物生産をビジネスチャンスと捉え、取組が一気に拡大することが期待されます。



（熱心に勉強する総社のグループ）

2 矢掛

矢掛でも稲WCSは急速に拡大しています。昨年度は 20ha(対前年比 10 倍)を作付けしましたが収穫方法が課題でした。

結局、町内公社による通常の飼料用機械と、町外業者による専用収穫機械とで、無事適期収穫ができましたが、やはり通常のア、レーキ、ロールベアラー体系では、作業性が著しく劣る印象が残りました。

そこで今年度、矢掛町も専用収穫機械を導入、町内公社に管理委託し、同公社が地域の収穫作

備中県民局農畜産物生産課畜産第一班

業を請け負うこととなりました。

今年度は 34ha(対前年比 1.7 倍)の作付けが計画されており、予想以上の拡大に不安も残りますが、井笠農業普及指導センターの働きかけで、矢掛町飼料用稲推進協議会（事務局：JA倉敷かさや）が設立されるなど、関係機関の連携強化が図られており、円滑に取組が進むものと期待されています。



（通常のロールベアラーによる梱包作業）

3 笠岡

笠岡では、昨年度から飼料用米を栽培（0.5ha）し、地元の大規模養鶏業者が利用しています。

飼料用米は、需要の有無を心配されることがありますが、養鶏業者の代表者によると「年間に使う飼料（約 8 万トン）の内、輸入トウモロコシが約 6 割を占め、その内 2 割程度（約 1 万トン）を飼料米で代替できる」そうです。

面積に換算すると、単収を 800kg/10a とした場合、約 1,250ha となり、備中県民局管内の米の過剰作付面積（約 1,000ha：中国四国農政局倉敷統計・情報センター調査）を上回っています。

もちろん、実際には価格面（購入希望価格は 30 円/玄米 kg）や乾燥方法、保管方法等、検討すべき課題はたくさんありますが、上手く結び付くことができれば、飛躍的に面積が拡大する可能性があります。

4 その他

稲WCSは、倉敷でも生産（H21 計画：1.3ha）されており、今年度は新たに高梁でも生産が始まる（H21 計画：0.2ha）など、取組の気運が高まりつつあります。

米の計画生産と飼料自給率の向上を図るため、備中県民局としても引き続き飼料用稲及び飼料用米を推進していきたいと考えています。